

政治学概論 II 2024 w1 (12 月 4 日) 授業の感想

氏名	Q1	Q2
赤星	何事も比較が大事だということ。	私自身も今まで何かと比較をされているものを見てきて、そういうものの方がされていないものより説得力があるなと感じてきたことがほとんどだったし、私が何かを説明する時にも比較というものをできるだけ用いて説明をしたいと考えているから。また、講義にもあったように、「日本は〜」「海外は〜」など、どこでも比較が行われ、個人単位でも「あの人と比べて私は〜」という考え方が増えて来ていると感じているからでもある。
岩田	SNS の愛国者さま	私も普段 X などのネットの情報を見るのが好きであるが、授業動画の話をきいて、確かに自国の美談ばかりが紹介されがちであると感じた。また、人と異なる視点の意見を持っていると批判されたりするところに疑問を感じる。人はステレオタイプに支配されがちであるため、そういったものに左右されずに常に疑問視を持って物事を見るということが重要であると考えます。
内坂	私が今回、面白いと思った箇所は SNS の愛国者さまについてだ。	この箇所が面白いと思った理由は、実際に SNS で「愛国者さま」を見る機会が多くあるからだ。SNS で政治について語っている人の投稿を見てみると、たまに違和感を感じるものがよくある。その違和感は、その人の持論における比較軸や客観視に問題があるからだとということが分かった。事実と全く異なる情報を SNS を使って流布させる陰謀論者についても興味深かった。
宇名手	国際政治学において他国と自国を比較すること	「国際」というと他国について学ぶという印象があり、自国と比較する機会があまりなかったため、他国と自国を比較していくことで政治学を学ぶことに興味を持ったため。また、比較するということは、政治的な面だけではなく、それに付随して環境問題などにも影響を与えるということから様々な視点を持つといった意味でも面白いなと思ったため。
遠藤	国際社会で均衡状態を成り立たせようとする力が働き、協調が生まれる背景が重要だと感じた。	かつてのように牽制しあい勢力均衡によって平和を維持するのではなく、国際機関や国際法などの制度や慣行、大国の利害関係の中で生まれる責任によって国際社会を動かしていること、国際世論によって協調を生んでいることが大切だと感じたから。また、国家利益と国際社会の利益が調和する点を均衡点として目指して外交をしていくことが大切になると感じたから。
大石	「出羽守」と「尾張守」論法、データに重要性を感じた。	上記の論法に関しては、自分自身大学の講義内でのよく用いられていると感じており、日本では実現不可能と感じるものも海外はこうやっているのに日本はやっておらずダメだなどと指摘していることに違和感を感じていたから。データに関してはいくつか作ったことはあったものの OECD などの元の情報からデータをとってみるという発想はなく、新たな視点だったから。またデータを作ることが教員としての指導の幅を見ろげられるということを学び、見るだけでなく、作ることも学習の一つということは考えたことがなく、講義を聞く中で意味に共感したから。

(continued)

氏名	Q1	Q2
大久保	比較の重要性	ただ日本のことだけを見て「ああだ、こうだ」といっているのではなく、他の国と比べることによって、日本特有なことや他の国と違っていいところ・良くないところを明らかにできることでどのようにみられているのかが分かりやすくなる。このことによって、どちらかに偏ることなくデータから何が言えるのか比べないと分からないところが見えてくるため、これらかの活動の中においても大切になってくる考え方だと思った。
片山	SNS の愛国者さまのところ	確かに、個人的にもネットは偏った意見やデマも多くあると思う。しかし、最近のマスメディアも偏った意見やデマが多いと感じる。特に、アメリカ大統領選における、異常なハリス推しや国民民主党の政策に対するバッシングの嵐、韓国の危機を伝える遅さ、被害者や有名人のプライバシーをフル無視の取材、ファクトチェックもしないで情報を流し外交が危うくなると言う、かなりひどい状態だと思ったので。
加藤	日本がどのような国かを捉える本田由紀さんの本の話の箇所が面白いと思った。	私は、日本がどのような国かを考える際には、日本の歴史や文化、現代社会の要素から考えていく方法をとる。しかし、授業で取り上げられていたのは、諸外国との関わりのなかで国際的に日本を捉えていくという方法であった。このことが自分の認識を新たにし、日本という国は、必ずしも自国のみならず、諸外国との関わりの中で捉えていくことができる学んだからである。そして、国際社会化が進む中で、日本という国をグローバルの視点で捉えていくことが重要だと考えたからである。
小石	SNS の愛国者	実際自分も、政治のことがよく分からないにもかかわらず、「安倍政権の方が良かった。岸田政権はダメダメだ。」というようなイメージを持っていたことに気付いた。SNS によって、きちんと知らずに、比較せずに知識をもったと勘違いしてしまっているということに気付くことができて、面白い・興味深いと感じた。また、全てのデータを自分がいいように解釈し、思い込んでいることによって陰謀論になり、それに踊らされている理由も、パッと見で分かりやすいからというところも面白いなと感じた。
田辺	「出羽守」と「尾張守」論法	単に海外と言っても色々な国があるのにも関わらず、私たちは海外と日本というように二項対立的に捉えやすくなっているのではないかと考えた。たとえば、自分以外の人も同じ考えを持っていると他者に主張したいとき、「みんなも同じことを思っています」といったことを言った経験が何度かあったのではないかと振り返る。また、教科書のなかで「私たち」といった記述がみられるが、どこまでを私たちに含めて考えればいいのか文脈を判断して教科書を読む必要がある。このように包括的な言葉は使い方、解釈の仕方ともに考えていくことが重要であると考えた。

(continued)

氏名	Q1	Q2
西田	陰謀論の箇所が重要であると思った。	日本人の考え方と情報過多である現在の社会の中に、陰謀論が溶け込みやすいと感じたからだ。現在のインターネットには大量の情報が存在し、確かな情報と不確かな情報が混在している。そのため、今を生きていくには確かな情報を選択するための能力が必要である。しかし、日本人は先進国の中でもネットリテラシーが低いというデータがあり、不確かな知識が受け入れられている。このような、日本人が情報を無批判に受け入れるという現状は問題であると考ええる。なぜなら、情報の吟味といった考えることを放棄することで、陰謀論にまんまと飲み込まれているからだ。確かに考えないことは楽ではあるが、これからの社会では間違った情報に踊らされない能力をつけるべきだと考えたため、重要であると感じた。
丹羽	日本の説明で「SNSの愛国者さま」と表現していたところ	自分もSNSを使用していて親近感がわいたのと、外国もSNSを使用している人がほとんどであるのに対して、なぜ日本だけがSNSにとらわれているという印象が大きいのか疑問に思ったからである。自分でも考えてみたところ、スライドでもあった排外主義や陰謀論が印象を形成するうえで大きなキーワードなのかなと感じた。SNSにおいて多数派の意見は絶対であり、少数派の人たちを差別したり無視したりするネット上でのいじめが、日本におけるSNSの印象を悪くしているのではないかと考えた。
野田	日本の高負担低所得が変わらないのは、長きにわたって政権交代が起こらなかったことが一つ原因に挙げられること。	確かに大学に入るためには家庭の財源があるかないかに大きくかかわっているし、その部分が変わってほしいなという気持ちがある。一方で、その原因が政権交代が起こらなかったことで新しい風が吹かなかったことに起因するのであれば、政権交代をさせようとしなかった有権者にも幾分か責任があるのかもしれないと思った。この記事から、選挙権を有効に活用することの大切さを感じた。
原田	日本ってどんな国<出羽守と愛国者さまの箇所	最近、ネットで目にしたニュースには主語がデカすぎてそもそも話にならないものや、「日本」という国や「日本人」という部類を過大評価しているものも多く見られるなど感じていた部分でもあったのですごく面白いと感じた箇所だった。また、どちらも比較軸や客観視に問題があるということは今後も意識していかなければいけないことであると感じたため重要であるとも感じた箇所である。
藤井	世界価値観調査の政治について話す機会のアメリカとドイツの結果	それぞれの国の政治への関心だけでなく、性格も現れているグラフであると考え、特にアメリカはその特徴が強く表れているなど感じ興味深かったから。収入が違って、多くの国民が政治に関心をもち、さらに自分の考えを発信していくことが比較的一般的なのがアメリカだと思った。また、ドイツの高収入であるほど政治について話す機会が多いのがなぜなのか疑問に思ったため選んだ。
藤田	国際社会は一国の支配的構図ではないが、無政府すぎることで議論を停滞させているのではないかと思い、支配的な構図と無政府的な構図の均衡点を見つけることが重要であると考えた。	講義の中で国際社会は普遍がなく無政府状態であると言っていた。世界各国が共通して当たり前だと思っているものが少ないからこそ、ロシアのウクライナ侵攻のようにロシアが正しいという国と間違っているという国で対立し、国際社会の議論が進まないうちに多くの人が次々に亡くなっていく状況になっている。そう考えると、1つの国の権力に踊らさせる支配的な構図も良くないが、普遍が存在せず、考えがまとまらない状態もよくないのではないかと考えたから。

(continued)

氏名	Q1	Q2
本田	国家利益と国際利益の利益は必ずしも対立しないという点に興味を持った	国家利益と国際利益の関係は密接に結びついており、必ず対立するものだと感じていた。しかし、実際は切り離して考えることができると知った。私はニュースなどを見るとときに関係性を切り離せないものと考えていた視点で見ていたため、今後は違う視点で見てみようと感じたから。
松本	日本では他国に比べて収入と政治関心はあまり相関がないのではないかと感じた	政治への関心が高い人は低収入の人や高収入の人に多いと考えていて、収入が低い人は社会保障に関する政策等が気になり、逆に高い人は所得税などの政策が気になるのではないかと今まで考えていた。しかし実際は特に大きな差があるわけではなく全体的に関心を持っている人が多いと感じた。しかし私は政治にあまり民意が反映されていないのではないかと感じているため、政治に対して関心を持ってくれている国民が多いのにもかかわらずなぜあまり民意が反映されないのかと疑問に感じた。
三島	国際政治政治学の基本的特徴の場面。	国際政治の基本的特徴について3つの特徴を学ぶことができた。その中で、なぜ国際社会が完全な弱肉強食の世界になっていないのかについて考えるところが面白い点だと考えた。国際社会で完全な弱肉強食の世界になっていないのは日本のような平和主義や経済依存を重視する国が存在することで、国際協調やルールを支持していることも協調が生まれる背景に加えて、理由の1つであると講義を受けて、考えた。
渡邊	日本の国民負担率について重要だと思った。	日本の国民負担率が高いと思っていたが、世界と比べたら低いほうであると思っていた。しかし、今回の講義で日本の租税負担率は世界の久具にと比べても高いほうではないが、社会保障負担率は高くなっており、それらを足した国民負担率は世界の国とくらべても高く位置しているということが分かったから。国民負担率はこれからも上昇していくと思うので、どのように軽減させていくのか考えていくべきだと感じたから。